GAUDETE IN DOMINO

京都教区時報 カトリック

古屋司教認可
発行所　教区事務所
定価　一部　10円
予約　一年　100円

奈良のマリスト会

マリスト会
責任者　アントニー　グリン神父

マリスト会の司祭達は奈良県で働いております。一九四八年にマースデン、ムルドン、ミルの三師が第一陣として参りました。現在は十人です。グリン、ニュージェント両師は奈良市の教会でニュージェント神父様が主任司祭、ムルドン神父様が富雄、ブルトン神父様が郡山、ガラハー神父様が八木、ポーロ・グリン神父様が高田、ハーカム神父様が葛の教会を夫々受持っております。ギニー神父様は七年間当地区で活躍されておりましたが最近休暇の為本国、オーストラリアに帰国しております。東京ではウィック、マックファーデン両師がフランシスコ会の語学校で日本語を勉強しております。

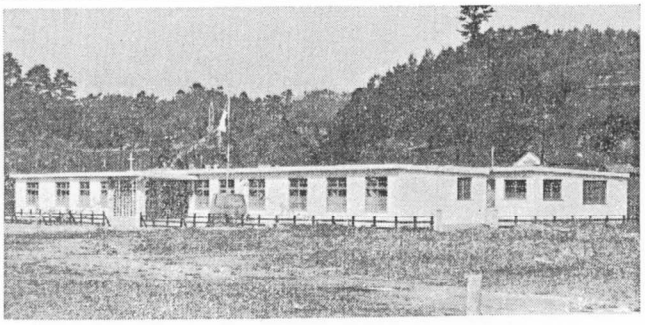
奈良県のカトリック信者数は九百二十名ですが、今までの最高の名誉は樺山神父様を生んだことでありました。神父様は一九五二年の十二月に、古屋司教様から司祭に叙階されましたが、二年前の十一月十一日に御病気の為若くして早くも永遠の安息のため神様に召されたことは奈良の教会にとって最も悲しいことでした。

しかし今年立命館大学を卒業したアロイジオ浅田君がマリスト会入会を決意して、八月にオーストラリアに出航、シドニーのマリスト会神学校で勉強することになりました。もう一人の青年が真言会の神学校に入る準備をしております。

また、今迄に約三〇名の女性が各種修道会に入る為に奈良の教会を去って行きました。

マリスト会は一八三六年主に布教地で働く目的の為にフランスのリョンで創立されました。マリスト会の一番大きな布教地は太洋州で、現在九名の司教と四百名の司祭が働いております。その他マリスト会は南アメリカ、アフリカ、日本で布教をしております。会員は全部で二千名位ですが、その他数百名のレイ・ブラザー達が司祭の仕事を助けております。

マリスト会の創立者はジョン・コリン師で一九〇八年福者の位にあげられました。その他会員の中で聖ピーター、チャネルは一九四一年太洋州のフツナ島で殉教、創立者の級友聖ジョン・ヴィアンネーはマリスト会の第三会員になりました。マリスト・ブラザーの創立者マルセラン・シャンパニャと聖体会を創立したジュリアン・エイマードは共にマリスト会の創立者のメンバーでありました。



葛の養老院

司教様公会議に御出席

十月十一日よりローマで開かれるヴァチカン公会議に出席の為、司教様はメリノール会管区長ウィッティ師、司教代理丸山師他多数の司祭、信者達の見送りを受け、十月六日夜九時半発「明星」で元気に上京され、八日羽田発特別チャーター機に東洋地区の司教様達と同乗、一路ローマに向われた。

公会議は十月十一日（神の御母聖マリアの祝日）に開会され、十二月中頃まで司教達は毎日午前九時より午後四時迄あらゆる問題について討議を続ける筈である。

司教様の帰国はクリスマス前頃の予定であるが無事大任をはたして来られるように、教区信者一同の特別な祈りが望まれている。

会の主な仕事は国外布数、教育、説教、黙想の指導、出版事業、改宗運動、神学校の仕事等であります。これ等の仕事を世界中のいろいろな国で行なっておりますが日本ではマリスト会員不足の為、僅かに六つの教会を持っているに過ぎません。

マリスト会の精神はナザレトのマリアの精神に基くもので、謙遜、自己否定、愛徳に基く聖家族の精神であります。創立者は会員達に次の様に書き送りました。

「会員は特別な召出により童貞母の家族の一員になったものですから、聖母の御名にならない、マリストと呼ばれる事を常に心に止めなければなりません。会員は常に聖母に倣い、聖母は第一の長上であります。若しも会員がこの愛すべき御母の真の子供であるならば、マリアの精神、即ち謙遜、自己否定の精神に基き神と親しく一致して隣人に燃ゆる愛徳を注がなければなりません。それですから会員は何事をするにもマリアの考え、言葉、行いに倣わなければなりません。さもなければマリアの子としては相応しくありません。

若し会員がマリアの後に従うならば、世俗の精神、世間的な望みを捨て、また自分の考えを捨てなければなりません。会員は凡てにおいて自己を否定し、自分の為ではなく、求める時はイエズスとマリアのために求め、自分達は地上の巡礼者或は旅行者であり、一番低い召使いであると考え、地上のものに執着する事なく、この世に於ては人に知られず隠れている事を望まなければなりません。換言すれば会員は清貧、謙遜、節制、心の単純さを深く愛し、隠れた徳を実行し、人々の救霊のために一生を捧げなければなりません、即ち会員は世に知られず、隠れている事を望まなければなりません。これが会の基礎であります。

奈良県ではシスター・メリー・モニカを院長として四人の善きサマリア人会のシスターが仂いております。十二年前に奈良に来て今では教会附属の幼稚園を経営しています。郡山と葛の教会にも幼稚園があります。

ブルトン神父様は郡山教会の幼稚園の園長をしており、大阪から来ている、聖ヨゼフ会のシスター達が葛教会の幼稚園を世話し、また同時に、マリスト会によって設立された葛教会の養老院のお手伝いもしております。

現在この養老院は大阪の聖ヨゼフ会のシスターに全部委せてあります。目下老人三十五名が住んでおり一四名が信者で他は求道中であります。

また、奈良県には名古屋のカテキスタ会から六名来て働いております。その他同じカテキスタ会に属する三人の姉妹が三つの教会で手伝っています。高田の病院には同会に属する二人の看護婦のシスターが働いております。

この世の定め

小牧　実秀

この果てしもない大自然が何の目的もなしに存在しているということは、考えにくいことです。

そのうえ、この大自然の一つの産物である人間がものを思うということも、ふしぎなことです。

人間の大脳はものを思うようにつくられています。その原因ともいうべき大自然が、何の目的もなしに――いいかふれば、いかなる「思い」にもさせられずに――存在しているということは、ひじょうに考えにくいことのように思います。

わたくしは、神を否定することができません。確信をもって肯定しないまでもすくなくとも確信をもって否定はできません。

わたくしは、神をたよりにし、また神をおそれます。

神の「さだめ」にさからうことは、けっきょく天に向かってツバを吐くようなもので、ツバはわたくしの顔のうえへ落ちてきます。これを昔の人は天罰といいました。

戦争は、けっきょく神の「さだめ」にさからっている諸国民への、至極あたりまえの「結果」であることをしみじみ思います。

吐かなくてもいいウソを吐くために、どれほど多くの不幸がこの世の中にあることでしょう。

両親の親身な忠告を、感謝をもって理解しようとしなかったために、どれほど多くの女性が男らしくない男性と結婚したことを嘆いていることでしょう。

結婚生活のためにのみ行使すべき神与の能力を別のことのために用いたために、どれほど多くの人々が、人生の経験を浅いものにしてしまっていることでしょう。

わたくしは身心ともに健康な人々が大好きです。

この明朗で楽しげな女子学生諸君と違って、わたくしには少々の苦痛と悩みがあります。それは修業時代のわたくしが、彼女たちに比べ、やや高慢であり、やや素直でなかったことのムクイです。わたくしの幾分ひ弱な体は、結婚生活に備えて独身時代に「体を鍛えて」おかなかったムクイです。

ごく最近、わたくしはカトリック教会を知り、それぞれの年令、性別職業に適した見事な指揮ぶりに感嘆しています。一つの基本的な真理に立って、少年少女・青年男女・成人・老後の人々への指導は適切・明確です。神との関係を知れば知るほど少年は少年らしく、少女は少女らしく、夫は夫らしく妻は妻らしく、老人は老人らしく、真剣に生きるようになることでしょう。

高野教会信者
（武庫川女子大学助教授・農博）

二神学生ローマに留学

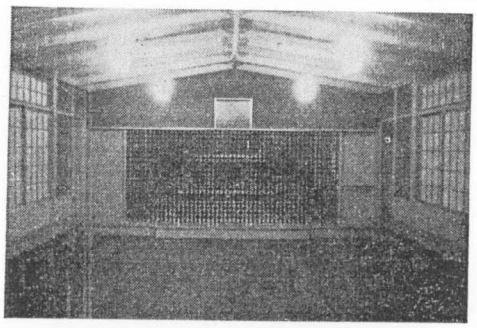
京都教区の大神学生村上透磨（衣笠教会）、越智健（夙川教会）の二人は去る九月二十二日ローマ留学のため横浜港を出帆した。十月からプロパガンダ神学校で神学の課程を修めることになっている。

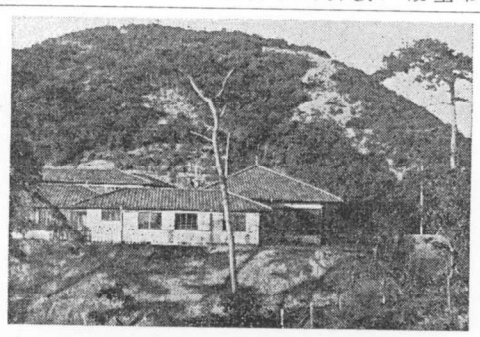
京都のカルメル修道会

去る八月二十二日より三日間衣笠にあるお告げのカルメル会修道会では、既報の様に改革四百年祭が行われたが、その記念にあたって教皇聖下は書簡を発表された。その中で観想生活の重要性を強調され、更に「本来の使徒職は実際キリストの救世事業に参加するにあり、これは祈りと犠牲の強烈な精神なしには達成されない。主が御父への祈りと自らを犠牲にされたことによって世を救い給うたが、このキリストの御使命の本質的な面に徹する人は例え外的事業をなさずともすぐれた使徒職を実行している」と語られた。カルメル会修道女の本分はここにこそあると云えよう。

一五六二年八月二十四日、アヴィラの聖テレジアがその当時緩和された会則に従っていた修道院から、カルメル会当初の会則をまもり福音の勧告を出来得る限り完全に生きるため聖ヨゼフ修道院を創立されたのも、つまるところ前述の教皇聖下の御言葉を徹底的に生きる目的以外ではなかったのである。

聖テレジアの生前、男子カルメル会の改革も成りスペイン各地に多数の修道院が創立されたが、その後フランス、ベルギー、イタリー等に拡まり、数多くの聖なる霊魂を輩出した。リジューの幼きイエズスの聖テレジアや、ピオ十一世が「燃えさかる雪」と称されたフィレンツェのイエズスの聖心の聖テレジアマルガリタなどそのさいたるものである。





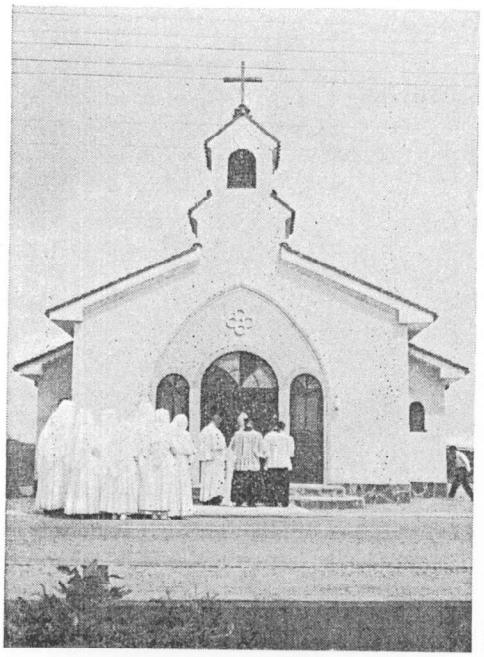
日本には一九三三年三月フランスのショーレーのカルメルによって東京に始めて創立された。最初は麹町の仮の家に次いで練馬区石神井の神学校の隣に修道院を建築した。戦争中は軽井沢に疎開されたりして多くの苦労を舐められた。二年前調布市深大寺に適当な地を得て移転され現在に及んでいる。東京のカルメルは戦後一九四七年に西宮に、一九五一年にはベルギーのカルメルが福岡の神学校に隣接して修院を建設された。そして更に同カルメルは一九五九年十二月京都の左大文字中腹に一修院を創立し、本年十月頃には東京のカルメルによる札幌の新創立もなる筈である。

カルメル会修道院は教皇直轄の厳律修道院で、一つ一つの修道院は独立し、尚一つの修院は二十二名を超えることは許されない。毎日の生活は念禱、聖務、仕事などによって織りなされ単調ではあるがその一さいは信仰と愛のうちに神への専心をめざしている。この念禱の生活こそカルメル会修道女の一人々々が生きるべき道なのである。生活を支えるため、種々の仕事に従事しているが日本では大体典礼用のローソク、祭服、信心用具（ロザリオ・クリスマスカード・御絵など）その他を製作している。

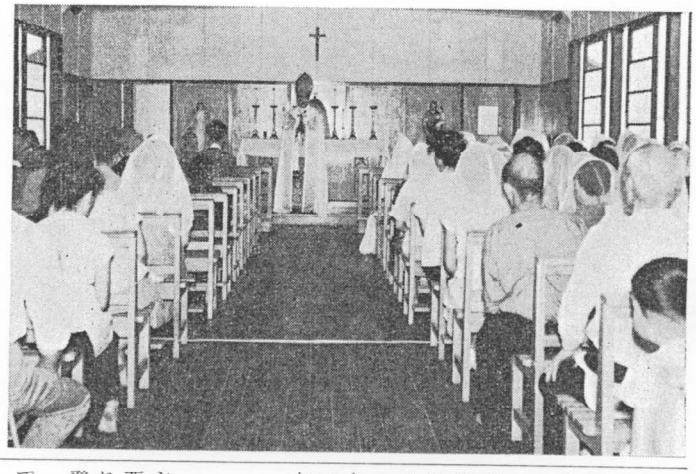
カルメル会修道院は高い塀や格子等きびしい囲があり、一見世間と没交渉のように見えるが霊的には世の人々と一つの心であり、カルメルの山の上でよりよく人々の声を聞きとり、その必要の為に祈り且つ聖会と一つの鼓動に生き、小さき聖テレジアが〝母なる聖会の心臓の中で愛になりましょう〟と云われたカルメルの使命を日々沈黙のうちに果しつづけて行くのである。

安曇川教会の献堂式

近江の北海道と言われるこの琵琶湖の湖西は全くリヤス地帯で山からすぐ湖といった景色には豊んだところですが、それだけに布教地が細長く、部落の点在と交通の不便、それに天候の不順、旧幣の殻の強い地方です。湖に遠く山にも遠いという大きなデルタの農地を持つのがこの安曇川（町）で隣接する旧城下町高島町と戦前よりのアイバ野演習場を持つ兵隊の町今津町を双方にいだくこの町は、人口一万三千人林農漁村であり扇子と織物の家内工業をして生計を立てております。点在せる各部落が合併して八年、安曇川町となったものであり、この中心地に新らしい教会が立てられました。歴史的には近江聖人とうたわれる中江藤樹の生地であります。



当教区主任司祭ブレンデルガスト・トマス神父様の御計画にて三年程前より幾多の困難を押え、農地を四百坪購入され、埋立て、神父様の独案による（フラー博士の考案とビザンティン様式の混和せるような）円型ドーム建築なる聖堂の構想を考えられたのですが、大阪にてその設計が具体化せずその他問題もあり、日時を浪するばかりにて（現在の）大学の講師や建築家達ではその希望をそえず、やっと六月、メリノール管区長ウィッテ神父様の御尽力によって、前衣笠の聖堂（現在伝導館）の模造によって型が決まり、九月九日十一時、古屋司教様司式によりライアン神父様、ムニー神父様補佐カロンドレッドのヨゼフ会のシスター様達の聖歌奉仕にて聖堂の献堂式並びにミサ聖祭が捧げられ、遠方より参集下さいました神父様方、シスター様達、信者方をはじめ当地方の町長、有名人、仏教会長、牧師、近隣者等百二、三十人の参列を見まして信者（当地の信者は子供あわせて五十人程）一同その感謝を真の意味の教会の建設に、御国の来らんことを祈りました。



当教会の御ミサは月二回、布教も直接のものと側面よりの文化的催し等による活動を計画中です。又当地ゆかりの〝藤樹先生〟の記念講演を、広島にて藤樹学会をもっていらっしゃる小出神父様にお願いするつもりでいます。（清水安三氏によって藤樹はキリシタンであったという本が出されたりもしています。）

関西地区宣教会司祭の集り

YBUホールで

九月九日午前十一時コロンバン会主催により京都のYBUホールで関西地区外国宣教会司祭の集りが開かれ、約六〇名の外人司祭達が集り活発な討議が英語で行われた。

当日の議題並びに講師は次の通りであった。

一、新信者の世話…ゴーマン師
二、学生の使徒職……コシン師

MEDITATION OF THE MONTH

THE MONTH OF NOVEMBER

"It has been appointed unto men that all should die, and, then, the judgment." (Heb. 9. 27) The month of November reminds us to think not only of the death of others, but of our own as well. For as we live, so also, shall we die. And as we die, so also, shall we live forever-after.

月の黙想

死者の月

「人間は、一度だけ死んで、死んで後審判を受けると定められている」（ヘブレオ、九・二七）のであります。十一月は他人の死と同様に自分の死についても考えるべきことを教えてくれます。私達が生きている限りいつかは死ぬでしょう。又私達が何時か死ぬとすれば永遠の生命について考えなければなりません。

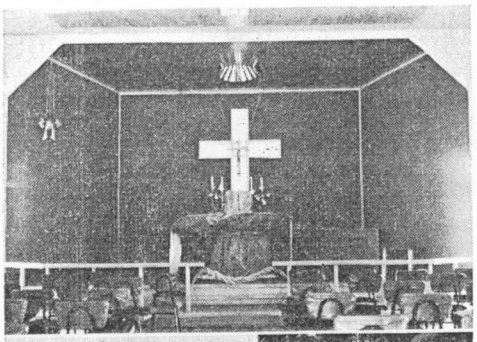
中舞鶴教会　献堂式

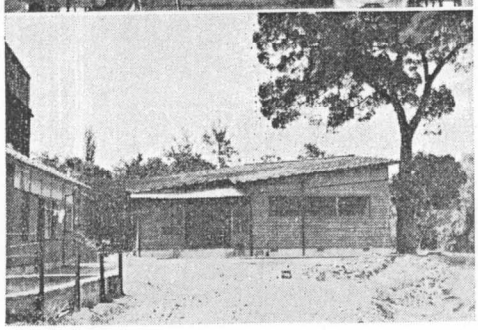
九月二十三日日曜日午後三時半より、古屋司教司式のもとにこのたび完成された中舞鶴新聖堂の献堂式が挙行された。西舞鶴と東舞鶴にはすでに教会があり、信者の霊的指導及び布教の為にレデンプトール会の司祭達が活躍しておられたが、中舞鶴は東舞鶴教会の出張所程度の仕事が続けられていた。しかし信徒の数も百名を突破し正式の教会を建設する必要を生じ、数年来土地を物色していたところ余部に適当な土地を手に入れることが出来、キマナルティ神父の尽力により、この程写真の如く外見は質素ながら内部は同師苦心の結晶とも思われる神代時代を連想させる立派な祭壇を中心に万事都合よく設計されている。

当日は天候に恵まれず、式の始る頃からポツリポツリ降り始めたが、両丹地区に仂くレデンプトール会の司祭は管区長代理ホーン師を始め全会員が集まり、又隣接教会敦賀より一名、及び京都から二名の司祭、その他訪問童貞会、聖母宣教会、レデンプトリスチンの修道女及び屋外に溢れる程多数の信者達が参列し絶えざる御救けの聖母に捧げる新聖堂の献堂式を祝った。

司教様はお説教で、新しく出来た神の園が芽生えるからし種として立派な成功をもたらす様に信者各自の自覚をうながし、レデンプトール会員の労をねぎらいお互いに協力していくことを力説された。

式後、屋外において質素ながら和やかな祝賀パーティが開かれ、日星の生徒さん達の美しいコーラスはこの祝賀会に一段と興を添えてくれた。





荘厳なテレジア祭

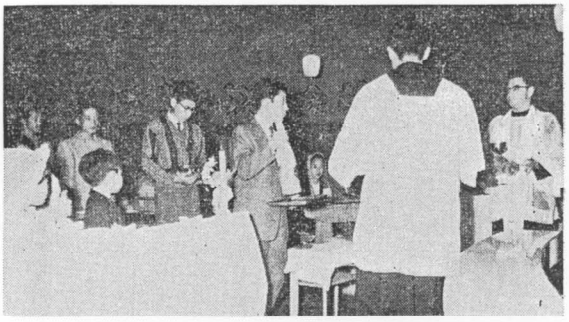
—衣笠教会

布教の保護者、幼きイエズスの聖テレジアの祝日を記念して、そのお祝いの行事が去る十月七日の九時のミサ聖祭から始められた。

当日、八名の初聖体の子供達は、この聖女の最も好んだとされる赤いバラの花を、またJ・O・C、衣笠組会の各斗士は、その創立十周年を記念し、日頃用いる労働道具や奉献のためのブドウ酒等を手にした行列が、聖堂内の信者の心からなる聖歌に依って迎え入れられた。この日のために、この時のために、一生懸命に準備された初聖体の子供の親達やシスター方、また十年の長きを順境にも逆境に置かれても、O・Bと共に与えられた使命として歩んで来たこの年月を振り返って、全身を走る感激に、暫し焦点の定まらぬ瞳で十字架を仰ぎ見た事であろう。

鮮血を思わせる真紅のバラの花になぞらえるこの聖女テレジアの偉大な愛に応えるべく霊魂の浄化に、使命を全うするために、一層の躍進を期待したいものである。

赤いバラの花、ホスティア、ブドウ酒や労仂道具の奉献から御聖体拝領時までの荘厳さは、筆舌を圧して、最も感激的な霊的経験を新にするに十分であった。この後お祝いのパーティが開かれ、十一時のベネディクションを以ってこの荘厳な記念行事を終えた。



生きたロザリオ

—西院教会

十月七日はロザリオの祝日に当るので夜七時からミサ聖祭があり、終ってから引続き生きたロザリオが行われた。

ロザリオの祈りをする前に主任司祭より「第一に私達は三位一体なる神を賛美し聖母を崇敬するため、第二に十一日からローマで始まる公会議が成功する様に、マリア様の一番御喜びになるこのロザリオの祈りを声を合せて御唱えしましょう」と説明があった。

一同聖堂を出て入口でローソクを受け更に大珠を先頭に小珠十人の人々がロザリオの形に集り、静かに進み全部所定の位置についた。香部屋で準備をされたシールズ神父様以下五名の方々も入堂し、祭壇と御像の前の灯火を残して、その他の灯は皆消された。ボーソレイ神父様はマリア様の御像の前に進み、ローソクに火を移し、更にシールズ神父様のローソクにも灯を移された。

聖堂内は一層静まり使徒信経の祈りが始められた。玄義を唱えるボーソレイ神父様の声は美しくマイクから流れ出た。

大珠から小珠へと移る声に耳を傾ければ、めでたしを唱和する声の音は次第に高まり子供の声も混る印象的な内に心は返って一層深く沈み静かな讃美をくり返へしていった。

五連も終りに近づいた頃ローソクの明りの彼方を眺めれば、にっこり笑っていらっしゃるマリア様の御顔もうれしそうに見えた。

終ってから聖体降福式が捧げられ、一同感激のうちに聖歌十一番を歌い八時四十分頃全部を終了した。

レジオ・マリエのコングレス

レジオ、マリエでは、来る十一月十一日（日）鹿ケ谷ノートルダム女学院においてコングレス（大会）を開催する。

午前九時三十分開会の祈りで始められ、ベネディクションを以て午後四時三十分に終る予定であるが、その間、御ミサとアロクチオを中心として午前と午後の部に分け、広くレジオの根本的原理に関する事柄について、討議研究が行われる。

尚、この大会は、京都コミチウムに於ては、前回一九五八年夏開催に次ぐ第二回大会である。

月に一回理髪奉仕

松阪市の鎌田さん

カトリック養老院訪れて

「養老院のお年よりが髪を長くしていては気の毒だ」と松阪市本町、理髪店主鎌田勘一さん（四四）は、同市西林、カトリック養老院が開園したさる三十五年二月から毎月一回散髪奉仕をして関係者に感謝されている六月三十日にも水曜日で店が休みとあって同院で奉仕したが、鎌田さんと奥さんのたま子さん（四四）の二人がかりで午前九時ごろから午後七時ごろまでかかって六十五人の老人たちの頭をきれいに調髪した。

あまり外に出る機会のない老人たちもいまでは鎌田さんの来る日が唯一の楽しみになり、調髪も鎌田さんに希望をいっていろいろの刈り方をかえてもらうほど。マリアンナ院長も「毎月きてくださってありがたいと思っています」と感謝しているが、鎌田さんは「おじいさん、おばあさんに喜んでもらうだけで幸福です。これからも続けます」といっている

ヴェリタス書院発行の良書

新刊　リジュの聖テレジアの≪小さい母≫
—イエズスのアグネス童貞—
リジュ・カルメル修道院版
パウロ・エグリ　校閲
B6　283ページ　¥ 350

本書は聖テレジアの姉ポリナーリジューカルメル修道院の終生院長，イエズスのアグネス童貞の生涯とその霊的面影を描写している。聖女テレジアについての認識を深めるに役立つ良書。

新刊　神の国の証人たち
—修道生活の入門—
B・カルパンティエ著　山下房三郎訳
B6　329ページ　¥ 350

教会の証人であり，選民である修道者の生活の生活法典。

学連だより

私達の姿勢

或る大学の先生はおっしゃいました。「我々の若い頃は一人で学んだものです。今の様に、グループを組んでする研究というものは我々の頃にはあまりやらなかったものです。」と。

確かに我々の学園を眺めてみても、サークルと名のつく学生のグループは数多く目につきます。そして私達の学生連盟もカトリック大学生の集り、という意味において一つのサークルと云う事が出来ます。けれども、そのサークルは地上の全教会の人々と一つの生命を共にしているという点において、非常に重大な意味をもっております。私達は、このことは常に第一に我々の念頭に置かれねばならないことであると肝に銘じてきました。

ところで、いわゆる複雑化した現代の社会においては、その社会の入りくんだあらゆる面に強力に対応するために教会も機能的に優れた戦闘態形をとることは当然のことであると思われます。そして、その態形とはヨハネス二十三世によって示された様に、信者の一人一人が自らの能力を充分に発揮する時にのみ実現されると思われますが、それは単にカトリック教会にとって有利な形態を意味するのみならず、それ以上に、信者の本来の姿を取り戻すことであります。それ故、私達の役割は決して単なる神父様方の下請けの仕事をするということではなく、むしろ自主的に責任をもってよく考え、祈り、活動することにあります。

けれども、斯様な活動の仕方が教会から信者を離反させるのではないかというに、決してそうではなく、丁度、航空母艦と交信を保ち、両者が互いに信頼し合って行動する如く、むしろそれ以上に我々と教会との間には聖霊の豊かな恵みが我々と教会の生命とを深く結びつけていることを、私達は決して忘れるものではありません。それ故、母なる教会は我々の一なる生命の源であると共に、愛すべき母なのであります。

最後に私達は次の点においてほぼ一致した考えをもっています。それは現代の社会と人々が神から離れていると云われるのは、全て彼等の責任ではなく、我々にも責任があるということであり、そのために、この混沌とした現代に生きる我々にも神は重大な使命を与え給うたという自覚とそれに伴う深い喜びが我々のうちにあるということであります。

とにかくあらゆる点に、至らぬ面をもつ私達をどうか適切な批判と助言をもって御指導下さいますよう。

（委員長・竹内和利）

学運新委員会発足

私達カトリック学生の集りが、再び新たな活動を始めた事を教区の皆様方にお伝え致します。

由来、カトリック大学生が一団となってする活動は我が国において、今に始まったものではなく、数十年の年月と多くの優れた諸先輩や神父様方の手を経て、今日に至ったものであります。そして隠れた地味な努力は全国的のみならずパックス・ロマーナという世界中の組織の一端をになうというところにまで発展するに至りました。

ここに、今期の学連の中心となるべき新らしい委員を紹介します。

委員長　プリオット師（ドミニコ会）ポウロ松田友明師（山科教会）アウグスチヌス竹内和利（同志社、文・二、河原町）

副委員長　マーガレット・メリー野本佳子（ノートルダム女大、文・二、河原町）

総務　マリオ西山諄（同志社、経・一、西院）

出版　ヨゼフ高橋勲（京美大、日画三、大阪田辺）

会計　アンドレア馬渡恭三郎（京大・理・二、武庫之荘）

庶務　C・M・ジョセフィン川田高子（ノートルダム女大、文・一、北白川）パンタレオン中本俊輔（京大、工・二、灘）

カト研専任研究会専任　F・ザビエル中田和夫（京大、法・二、河原町）

指導司祭　未定

この他、典礼、高校部は未定です。

○連絡は聖トマス学院内京都学連室まで。

編集室より

「教区時報」も創刊号以来、皆様の御理解と絶大なる御支援のもとに漸く半年経過致しました。

紙面は読者の皆様のものであり、皆様の小教区のものでありますからどしどし御利用下さらんことを。

教区の発展、教区の一致は教区内の事情を互に知り合う事であります。から、機関紙存続のため一層の御理解と御協力をお願い致します。

〝教区時報〟の責任者を〝各小教区、修道院、学校、各種団体毎に「教区時報」宛各自のニュース（写真を含む）を送っ下さる責任者を決めるか、或いは必ず連絡のとれる適当な方法を考えて下さい。

宛先

京都市中京区河原町三条下ル下丸屋町

京都教区事務所内

教区時報係宛

○原稿の締切りは毎月十日まで。

○記事はニュースの他に美談、失敗質問、こぼれ話等もどしどし。

○原稿については紙面の関係上当方で取捨てることもありますが予め御諒承願う。

○どうしても記載を必要とする場合は其旨を明示して下さい。

○申込まれた部数の他、破損其他の都合を考えた上余分に送りました所もありますが、料金は予約分だけ送金して下されば結構です。

○紙面の都合上、内容がニュースに限られる傾向になりますことを御諒承下さい。

○請求書、受領書を時報発送の際同封致しますが、疑問の点があれば係り迄お問い合せ下さい。

○各教会に於きましては出来る限り今後部数を増して頂くようにお願い致します。教会の事情により逆に注文を減らされる教会もありますが、何卒時報発行によって、教区の発展の一事業が継続されるように御理解下さらんことを。

○定価、一部十円、一ヶ年分予約百円、送料一部に付十円、一ヶ年百二十円

（第三種郵便物として認可を受けられません）同時に十部以上送る時は無料。

YBUの新作

長篇劇映画

「意義ある人生」

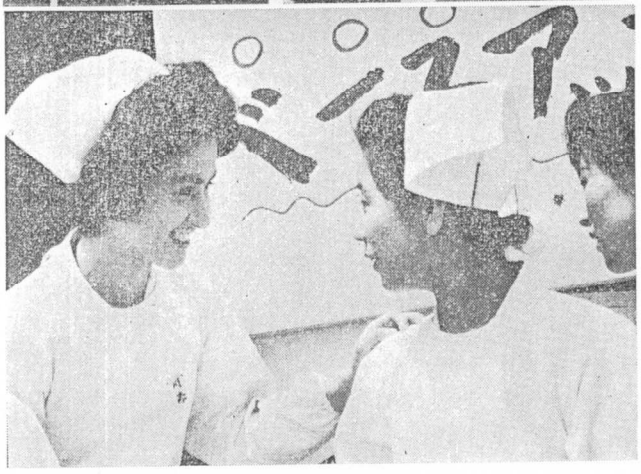
YBU（善き牧者の運動本部）では、正しく、明るい、よい社会建設に役立つ映画を製作してをり、既に六十数本の短篇物を公開して来たが、この度長篇物として「意義ある人生」を製作、去る十月十三日より松竹京都座で上映され、多くの人々に多大の感銘を与えた。

こう概

市内のある病院に勤務する若い看護婦（由美）が散歩の途中偶然街角にて病気で苦しんでいる青年（卓二）を自分の病院に連れ帰り診察の結果重症のガンであることを発見、医者はすぐ手術するようにすすめるが、青年はそれをきらって無断で病院を逃げ出してしまう。

それを知った由美は尊い人命を救うため大切にしていたヴァイオリンまで売って資金を作り新聞広告を出したり、あらゆる困難にもくじけず懸命にその行方を捜す。

一方お産のため入院中の女、（妙子）が病院の屋上から投身自殺をはかるのを発見、それを助けるが、女は夫婦約束をして一緒に田舎から出てきた浮気な男の心変りから、父なし子を生みたくないため死のうとしたことを知り、彼女が赤ん坊は死産だったと信じているのを幸い彼女にはそれを伏せておく。ところが妙子は男と二人で撮った写真を今も大切に持っているのを知り、今も男を愛しているものと、彼のアパートを訪ね、子供の生まれたことをつげ、男の不誠実を強く詰る。



病院ではベースアップをめぐり組合大会が開かれ由美達少数の良識派の意見が入れられず、遂にストに突入する。その最中に再びヤケ酒を飲んだ挙句路上に倒れていた卓二を病院に連れ戻すことが出来手術を行なうが、手術は吉岡医師、由美達の努力の結果成功裡に無事終る。

その間由美は病院の一部の同僚先輩には誤解を受け意地悪をされながらも、劇しい勤務にもめげず自分を犠牲にして尊い人命を守るため、寝食を忘れ、献身的に身辺におこる事件を次々と解決し、遂に自らも病に倒れ、大手術を受けることになるが、その気高くも優しい心情に接して意地悪先輩もその非を悟り、手術室の由美に許しを乞う。

由美が妙子に知らしてなかった赤ん坊に会いたくて病院の妙子の部屋を訪ねた男は妙子に自分が悪かったことを詫び無事元気に育っていた赤ん坊に対面、再び愛し合うことを誓う。

由美の手術も、皆仲良くなった看護婦達、院長はじめ真剣な医師の努力で危機を脱し、看護婦、妙子、本田、卓二の安心した顔にて物語りは終る。

世の中で苦しんでいる多くの不幸な人達の尊い人命を守るため、あらゆる困難と戦って自己の使命に生きぬく、ある若く優しく、そして明るい看護婦の社会に奉仕する姿を画いた物語りである。